

令和 元 年度 第2次総合計画 施策マネジメントシート
(平成 30 年度の実績評価)

作成日 令和 年 月 日
更新日 令和 1 年 6 月 28 日

総合計画体系	政策No.	1	政策名	安全でみどり豊かな人がつながるまちの形成	施策主管課	農林商工部 ユネスコエコパーク推進室
	施策No.	4	施策名	自然と共生する地域づくり	施策主管課長名	廣瀬 和弘
施策関連課名			政策推進課、環境課、(管財契約課)			

1 施策の目的

① 対象(誰、何を対象としているのか) * 人や自然資源等 市民 事業所 自然環境 対象の大きさを表す指標 ⇒ 2-① 対象指標	② 意図(この施策によって対象をどう変えるのか) 豊かな自然資源の保全・活用への関心が高まる。 人と自然が調和した持続可能なまちづくりが行なわれる。 意図の達成度を表す指標 ⇒ 2-② まちづくり指標
--	---

2 指標の推移、指標設定の根拠等

指標区分、指標名		単位	数値区分	基本計画 現況値	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度	
① 対象指標	ア 人口(外国人含む)	人	見込み値			72,322	72,001	71,680	71,359	71,038	
			実績値	72,963	72,715	72,305	72,018	71,880	71,602		
	イ 事業所数(経済センサス基礎調査)	事業所	見込み値			3,161	3,161	3,161	3,161	3,161	3,161
			実績値	2,938	2,938	3,161	3,161	3,161	3,161		
	ウ 市の面積	km ²	見込み値			264.14	264.14	264.14	264.14	264.14	264.14
			実績値	264.07	264.14	264.14	264.14	264.14	264.14	264.14	
② まちづくり指標	A ユネスコエコパークの認知度	%	目標値			30.0	35.0	40.0	45.0	50.0	
			実績値	26.5	39.4	38.3	32.3	33.2	31.9		
	B 登山ガイド・自然ガイド認定登録者数	人	目標値			74	84	94	104	114	
			実績値	19	52	50	56	53	46		
	C 自然エネルギーの活用による発電量	kwh	目標値			1,089,400	1,115,900	1,142,400	1,168,900	1,195,000	
			実績値	980,130	1,166,528	1,134,105	1,056,491	945,500	1,025,584		
	D 公用車クリーンエネルギー化率	%	目標値			37.0	39.0	41.0	44.0	45.0	
			実績値	34.5	34.5	34.9	35.1	37.5	40.3		
	E		目標値								
			実績値								
	まちづくり指標設定の考え方		<p>A: 自然との共生に関する市民の認識を高める。 【市民アンケートの『あなたは、ユネスコエコパークについてご存知ですか?』において、「知っている」と回答した人の割合】 B: 自然環境の保全に関する取り組みを示す。 【①~③の合計 ①南アルプスガイドクラブ登録ガイド数(日本山岳ガイド協会公認ガイド[4月1日現在])【公式HP掲載ガイド数】 ②南アルプス市ネイチャーガイド協会における認定ガイド数【事務局報告】 ③南アルプス市在住の自然保護協会自然観察指導員登録者数【H28より個人情報のため正会員の把握不可】 C: 新エネルギーの普及状況を示す。 【自然エネルギー活用による発電量(金山沢川発電所発電量+公共施設太陽光発電量)】 D: 公共設備における環境負荷の低減を示す。 【全公田車のうち低公害車等の占める割合(低公害車台数÷全公田車台数)】</p>								
	目標値の設定の根拠(前提条件や考え方)		<p>A: エコパークの周知活動を推進し、5年間で約25%の増加を目指す。 B: ①南アルプスガイドクラブ登録ガイド数はH31年まで現況の27人を維持し、②南アルプス市ネイチャーガイド協会における認定ガイド数は年間約10人の認定を目指し、③NACS-J自然観察指導員登録者数は現在認定されている12人の維持を目指す。(H25年度実績: ①0人+②9人+③10人=19人、H31目標値: ①27人+②75人+③12人=114人) C: H26年度に見込まれる発電量をもとに目標値を積算。基準値(H26)1,062,900kwh=金山沢発電想定量370,000kwh(740,000kwhの50%)+公共施設太陽光発電想定量692,900kwh 目標値の伸び率を年間実績に基づき2.5%と設定(H31基準値×12.5%=1,195,762kwh、H25年度実績値: 小水力発電338,880kwh+太陽光発電641,250kwh) D: 公用車の低公害車(燃費基準達成車・ハイブリット車・電気自動車等)の導入率。管財契約課の公用車更新計画をもとに算出。</p>								

3 予算等の推移

※当初予算。骨格予算の年度は6月補正後

区分	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	令和元年度
関連事業本数	38	43	29	26	22	21	
関連事業予算額(単位:千円)	89,070	125,329	65,600	55,376	50,657	118,266	
(予算額の内訳)	国庫支出金	0	0	0	0	0	0
	県支出金	23,920	33,255	31	31	291	31
	地方債	0	14,100	0	0	0	16,600
	その他	6,473	30,583	19,710	20,515	11,906	21,096
	一般財源	58,677	47,391	45,859	34,830	38,460	80,539

4 評価結果(施策の有効性評価)

① 目標達成度評価(目標値と実績値との比較)	
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	※左記の理由 ユネスコエコパークの認知度については、昨年より1.3ポイント下回った。 登山ガイド・自然ガイド数については、高齢のためにガイドを辞めた人数が減少要因にあげられる。また、NACS-J(自然保護協会)の自然観察指導員は自然保護協会の会員になることが前提で資格が維持されているので、個人情報により会員の把握ができない。 「自然エネルギーの活用による発電量」については、水力発電所の発電量が前年より96,410kwh増加した。また、「公用車クリーンエネルギー化率」は、目標に対し3.7ポイント下回ったものの、昨年より2.8ポイント上がった。
② 時系列比較(基本計画現況値からの推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	※左記の理由 登山ガイド、市ネイチャーガイドは市の事業から自主運営に移管したことに伴いガイドの養成講座等は現在行われていない。したがって新しくガイドとして参画する新規会員はいない。また両ガイド組織には高齢者もいることから、今後退会する者が増えてくる傾向も看取できる。 「自然エネルギーの活用による発電量」は、公共施設への太陽光発電を順次導入しているが、太陽光発電量、水力発電量とともに、その年の天候にも左右される。
③ 他自治体との成果実績値の比較	
<input type="checkbox"/> かなり高い成果水準である <input checked="" type="checkbox"/> どちらかと言えば高い成果水準である <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である <input type="checkbox"/> どちらかと言えば低い成果水準である <input type="checkbox"/> かなり低い成果水準である	※左記の理由 ユネスコエコパークの認知度は国内において依然低迷しているのが現状である。「自然環境の保全にかかる人の活動」を評価、登録しくみであるので成果が見えづらい。しかしながら、本市においてはユネスコエコパーク推進室が設置されており、他市町村と比べ専門性の高い事業が推進できる。 太陽光発電の導入に加え、小水力発電の導入にも取り組んでいる。

5 まとめ(課題の抽出と解決の方向性)

施策の課題 (現状の問題点)	課題解決の方向性
ユネスコエコパークはUNESCOの正式事業であるが、富士山等の世界文化遺産等のシンボリックな対象がないので成果が非常に見えづらい。	本市は全域がユネスコエコパークの区域になっている。3つの区域にはそれぞれ既存の施設があるので、それらを積極的に有効活用することが重要である。また、市民が各施設を訪れて本市の自然環境や歴史、文化が楽しく親しめる事業の展開がこれまで以上に求められる。 ユネスコエコパーク(生物圏保存地域)の本来の目的である自然を守ること、その将来に期待できる地域づくりの再確認が必要。
公共施設における太陽光発電所及び水力発電所は、経年劣化等で不具合が発生している。	各施設管理担当による適切な維持管理を徹底する。 年間を通じて適切な維持管理業務委託により状況を把握するとともに、不具合が生じた場合は、速やかな予算措置と対応に努める。